

知って得する健康保険の基礎知識 68

医療保険制度の存続が危うい状態に！

おもに大企業の社員を対象にした健康保険料率の2022年度平均が9.26%となりました。年々、増加する医療費の増加で、医療保険制度の存続が危ぶまれています。

【高齢者の医療保険制度の仕組み】

日本の医療費は、毎年1兆円を超えるペースで増え続けています。その主な要因は、「**少子高齢化**」です。医療機関にかかる**高齢者が急速に増えており、医療費全体の約6割を高齢者が使っています。**さらに、現役世代の少子化によってますます財源が厳しくなる**ダブルパンチの状態**です。

さらに、**団塊世代の後期高齢者入りで、拠出金は増加になる見込み。**
後期高齢者（75歳以上）医療費の負担率はどうなっている？

本人の自己負担 1割 ※現役並み給与者は3割負担

国の税金 5割

現役世代保険料 4割（高齢者医療に拠出金を納付）



2022年10月から年収200万円以上（単身世帯）は窓口負担が2割となったが、医療保険制度の継続的な見直しが必要です。

【医療保険制度維持のために個人でできる4つのこと】

①はしご受診やコンビニ受診をしない



はしご受診：同じ病気で複数の医療機関にかかること。別々の医療機関で同じ検査を受けたり、同じ薬をもらったりすると、その分医療費が無駄になります。

コンビニ受診：時間外や休日受診のこと。通常の診察時間外の受診には割増料金がかかります。

②ジェネリック医薬品を希望しましょう

新薬の特許が切れた後に同じ有効成分で作られ、同等の効能や安全性が確認された医薬品のこと。

新薬に比べ、5割以上安価なものもあり、薬代を大幅に抑えることができます。

③タバコをやめる「禁煙」

タバコが体に悪影響を与えることは、誰もが知っていること。「**禁煙**」は健康の近道です。



④セルフメディケーションを意識する

自分で病気やケガの予防と治療をすること。正しい運動や食事、睡眠を心がけ、健康を維持することも含まれる。軽い病気やケガなら、薬局の医薬品で症状を改善させる。（セルフメディケーション）

※スイッチOTCと呼ばれる対象医薬品の年間購入額が12,000円を超えるようなら、その分の所得税と住民税が軽減される

セルフメディケーション税制も利用できます。



※コラボヘルス（企業と健康保険組合が協働で行う健康増進施策）

帝国ホテルをはじめ各事業主と帝国ホテル健康保険組合は積極的に協力し合い、被保険者と家族の健康増進に対する施策をすすめています。「知って得する健康保険の基礎知識」は皆さんに役立つ情報をお知らせする「**コラボヘルス**」施策のひとつです。